年度	科目名	課題領域	単位数
2025年度	外国につながる児童生徒の教育II	日本語・教科の力の育成 異文化間能力の涵養	1
授業の目的	１．外国につながる児童生徒の実態等に応じ、言語教育に関する専門的知識に基づいて、日本語・教科の教育を行う力を養う。 ２．外国につながる児童生徒と、周囲の子どもや社会との相互作用を通して、お互いの異文化間能力を育てる。		
学修目標 （目標とする資質・能力）	・外国人児童生徒等の受入れ体制・指導体制に応じて、指導・支援を行うことができる。 《育む力：ケ》 ・第二言語習得や教育方法に関する知識を踏まえ、子どもの年齢的な発達の違いを考慮した日本語や教科の指導・支援をすることができる。 《育む力：コ》 ・日本語に関する知識を生かして、子どもの日本語の力に合わせた日本語や教科の指導・支援をすることができる。 《育む力：サ》 ・子どもが新しい環境に適応することを支援できる。 《育む力：ソ》 ・子どもの母語、母文化、アイデンティティを尊重し、学級・学校・地域における社会参加を促すことができる。《育む力：タ》 ・子どもの文化間移動の経験や言語的文化的多様性を価値付け、周囲の子どもの学びに結びつけることができる。 《育む力：チ》		

各回の授業内容

回	月日	時間帯	授業テーマ	内容概略	担当教員／ゲスト講師
1	8月22日（金）	午前１（90分）	児童生徒が学ぶ日本語プログラム(1)	日本語指導の内容や段階性を学び、初期の日本語プログラムの特徴を理解する。 ▹F, G, I	鹿嶋恵（崇城大学総合教育センター教授）
2		午前２（90分）	児童生徒が学ぶ日本語プログラム(2)	日本語能力の測定方法、学習段階や目的に応じた評価の在り方について理解を深める。 ▹C, E, F	
3		午後１（90分）	外国語として学ぶ日本語の特徴(1)	第二言語として学ばれる「日本語」の特徴を理解し、複数の教材やテキストを比較しながら、シラバスや学習目的の違いを把握する。 ▹G, H	
4		午後２（90分）	外国語として学ぶ日本語の特徴(1)	「やさしい日本語」やリライト教材の目的や特徴を理解し、教科学習への参加支援について考える。 ▹ H, I, J	
5	8月23日（土）	午前１（90分）	発達段階に合わせた日本語や教科の指導・支援	「JSLカリキュラム」の特性を理解し、小学校での実践事例について読み解く。 ▹ H, I, J	
6		午前２（90分）	日本語指導担当者による実践に学ぶ	日本語指導の実際を学ぶとともに、外国につながる児童生徒の置かれた状況や学校現場での取組について理解を深める。（主に中学校） ▹I, J, K, M	安田享子（熊本市立城南小学校※教諭） ※日本語指導拠点校
7		午後１（90分）	学習参加に必要な支援と学習環境づくり(1)	在籍学級での学習支援方法を整理し、周囲の児童生徒との相互作用を含めた学習環境づくりについて考える。 ▹D, J	鹿嶋恵（崇城大学総合教育センター教授）
8		午後２（90分）	学習参加に必要な支援と学習環境づくり(2)	キャリア形成とことばの力の関連性について学び、児童生徒の自己実現の方法について考える。 ▹E, J, K	
履修条件			現職教員及び教員免許保有者（大学院生を含む）		
評価の方法			授業への参加、事後アンケート		

表中の≪育む力：ケ～ツ≫の記号は「豆の木モデル」において、外国人児童生徒等教育に携わる教師に「求められる具体的な力」を、また、▹A～Nの記号は同じく教員の「養成・研修の内容構成」に該当する。詳しくは、次の文献のpp.5-10を参照。公益社団法人日本語教育学会（2020）『外国人児童生徒等教育を担う教員の養成・研修のための「モデルプログラム」ガイドブック』（https://mo-mo-pro.com/report）